

瓊水

瓊のように清く 鉄のように強く 手をつなぎ
のびる北っ子

校長 田崎俊一郎



さらなる成長に向けて!

2025年も残り8日となりました。大阪・関西万博や猛暑、お米の高騰や熊による被害の拡大など、さまざまなことがあった2025年です。振り返るとどれも随分と昔のよう感じてしまいます。年齢を重ねると1年の感じ方が短く感じるそうですが、心理学的にはこれをジャーネーの法則というそうです。10歳の子どもの1年は人生の10分の1ですが、50歳の人の1年は50分の1で、同じ1年でも体感的な割合が小さくなるため短く感じるということです。どんどんと短く感じる1年ですが、その分、1日1日を意味あるものとして過ごす意識をもつことが大切なのだらうと考えてしまいます。

さて、今日は2学期の終業式でした。「教室はまちがうところ。失敗を恐れず、みんなと協力して、最後までやり遂げよう」と呼び掛けてスタートした2学期でした。今年度目指している「自律」「協働」「創造」がどのくらい具現化できたのか振り返ってみます。

自律…自分からやる(まちがいをおそれず!自分から行動する)

受け身の学習から、主体的に学ぶ姿が教室のあちらこちらで見られます。学び方を指導したり、振り返りを位置付けたりしたことが自律した学びにつながっています。

また、子どもたちの自発的な姿勢も見られています。生活面の課題に気づき、解決に向けて取り組んだり、みんなが楽しめる企画を考え実践したり、児童自ら生活をよりよくしていこうとする姿勢

が見られるようになったのは大きな成長です。言われるからやるのではなく、常に課題意識をもって学校生活を過ごすことができるように3学期も取組を進めます。

協働…みんなでする(まちがう人をわらわず みんなで協力する)

学校生活の中で、協働して活動する場面はたくさんあります。2学期もグループ活動や縦割り活動など、多くの協働的な活動を位置付けました。

また、地域の方と協働した体験活動を行うことで、さまざまな人と連携することの大切とその良さを学ぶことができました。協働活動を支えるのは他者意識です。発達段階として自己中心的な考え方をすすめる子もいますが、多様な人の考えを尊重することは、協働してもものごとをやり遂げるには不可欠です。今後も機会をとらえて指導を続けていきます。



創造…さいごまでする(まちがっても何度も繰り返し挑戦する)

北小の子どもたちが最も苦手とする点です。2学期も成果を認めながら、あきらめずに学習をすること、挨拶や廊下歩行など、基本的な生活習慣を身に付けることに重点を置き指導をしてきました。しかし、まだまだ継続する力や繰り返し挑戦する力が必要です。学習においても授業のスタートから学習に参加していない児童が見受けられます。こつこつと継続することで達成した経験が少ないことが姿勢に表れているのでしょう。また生活面でも、挨拶や廊下歩行はまだです。特に挨拶は、自分からできない児童が目立ちます。挨拶は自分を知ってもらおう良いチャンスです。挨拶の印象によってその人の印象も決まってくる面も大きいです。

3学期は、この「創造」の部分をより重点的に取り組んでいきます。

